

いつか、未来をつくる、みなさんへ

～ ユニソフトは、私です ～

ユニソフトの社員として働くことのイメージアップとして、
みなさんと歳の近い先輩を紹介します。
先輩の姿は、将来の自分の姿と捉えることができます。
まずは、どんな仲間と一緒に働くかという
イメージをつかんでほしいと思います。





笑顔を届ける仕事。 世の中を便利にする使命

世の中を便利にするようなシステムを作りたい！」

そんな漠然とした目標を掲げ、IT系の専門学校へ入学しました。当時の私は、右手人差し指1本で、かな入力しかできない初心者でした。当然、システムってどうやって作るかなんてわからないし、何を勉強すればいいかもわからない。授業だって付いていくのが精一杯。

それでも掲げた目標に向けて、ひたすらに努力しました。

結果、在籍した3年間で高度に分類される国家試験に3つ合格

(クラスでは私だけ)、先生からは、ITスキルだけではなく集中力と睡眠耐性がズバ抜けているとの評価をもらえた。

本当はプログラミングスキルを一番評価してもらいたかったが、それでも自信が持てた。

しかし、ユニソフトに入社してからその自信は早々に打ち砕かれた。学校で学んだ内容はあくまで最低限の基礎といった感じで、より深く詳細に物事を理解していく必要があったからだ。

また、聞けば答えを教えてもらえる学校と違い、自分で考え、調査するスキルも必要となる。

私は上司からお願いされた作業をこなすので精一杯。学びの日々でした。

1、2年過ぎて3年目、作業もある程度こなせるようになり、自分の意見も出せるようになって、私はあるシステムのメイン担当を任せられることになりました。

今までと大きく変わったことは、お客様の生の声を聞ける機会が増えたこと。自分が手掛けたシステムが良くも悪くも評価いただき、感想をもらえる。特に喜んでもらえた時は、私自身も大変嬉しく、やりがいを感じられた。

ふと、掲げていた目標を思い出す。世の中を便利にする。」

それは誰かの役に立ち、笑顔になってもらいたいという思いを込めていた。

私が手掛けたシステムは、ごく一部の人が使うものであり、世の中に出ているわけではない。それでも、漠然とした目標が目の前に見えた気がして、今まで積み重ねてきた努力は決して無駄ではないと思えました。

私は今日も誰かに笑顔を届けるための仕事をしている。

ユニソフトは、私です。

富山から再出発にかけた誓い



私は地元が富山です。高校は地元の工業高校に入学し、卒業後は富山の製薬工場に就職いたしました。

工場での勤務は、最初のうちは学ぶことが多くあり、気持ち的にもメリハリがある環境だったと思います。

しかし、最終的には「なぜ自分はここにいるんだろう」と毎日思うようになりました。

そう思ってしまった理由は、2つほどあります。

1つ目は、仕事に慣れてくると業務が毎日同じことの繰り返しでつまらなくなりました。

飽き性な私にとって毎日の同作業の繰り返しは精神的にきつい部分でした。

2つ目は、危険な薬品を取り扱っていたので、このまま工場にいると将来的にすぐに死にそうと思ってしまったことです。

私が働いていた4年間だけでも、(軽めの)爆発が起きたり、塩素ガスや硫酸の漏れなど多くのアクシデントに遭遇しました。

いつ死んでもおかしくない環境にいたのが恐怖でした。

そのような気持ちでいると「今の環境を変えていきたい」と思うようになります。

今を変えないといけない、

この想いのために、過酷な就労をつづけ、お金をためました。

前から気になっていたITの世界、活き活きと働ける組織に就職するため、工場を辞めて新潟の専門学校へ入学し卒業、そして、ユニソフトに入社し現在に至ります。

現在と過去では働いている際の気持ちや全くと言っていいほど違います。

過去は先ほどもお伝えしましたが、仕事に対するモチベーションというものが上がらず死におびえる毎日でした。

現在は、常に新しい技術が入ってくるので、新しいことを学ぶことと、そして、仕事を通じて、自分の居場所が

広がりつつあって、嬉しく、将来への希望があります。

富山からの再出発は私の人生において大きな決断でした。今思うと過去の決断は正しかったと言えます。

ユニソフトは、私です。

意外と野心家なわたし



私は秋田県出身の面食いOLです。

地元は、田園風景が広がり、冬は豪雪地帯と言われる、そんな場所で育ちました。

環境のせいなのか、人前に立つことが得意ではなく、いつも同じ友達と仲良くしていました。

振り返ると内向的なタイプだったと思います。

高校卒業すると、地元に残る友達が少なかったもので、私も都会へ行こうと、とりあえず仙台の専門学校へ行きました。

新しい環境での交友関係が広がり、ファミレスで接客のバイトをしたりと、新しく人間関係を構築する場が増えました。この経験と環境が私を社交的にさせてくれたと思います。

ユニソフトに入社する前は、大手キャリアの携帯ショップ店員でした。バイトでの接客の経験を生かし、何となく選んだ道でした。

色んな人との応対があり、楽しく感じる時もありましたが、やりがいを感じず、個人としてスキルアップしたいと思う気持ちが強くなり転職し、今に至ります。

職業柄、目が疲れやすいので、日々SNSや動画で推し達を眺めて、目と心の保養にしています。

画面越しの推し達の世界に浸る時間は、至福の時間です。

こんな私ですが、仕事面ではこれまで主にインフラ系の開発に携わり、チームリーダーとして頑張っています。

大変な時もありましたが、一緒に作業するメンバーやお客さんが嫌ではありません。成長の過程の苦労だと思いました。

そうして、一緒に作業するメンバーやお客さんと共に成すべくハドルを乗り越えてきました。

私がここまで頑張れたのは周りの環境のおかげです。

今の立場で、楽しい環境で仕事ができて、

ユニソフトに入社してよかったと思います。

これからも楽しく仕事をするために、お客さんや社員同士のコミュニケーションをとり、人との繋がりを大切にしていきたいです。

今回の記事を機に自分自身を振り返ってみて、

意外と野心家なところもあるんだなと思いました。

あと最後に、もう一つありました。

欲を言えば推しと繋がりたいです。

ユニソフトは、私です

ワクワクがとまらない



はじめまして。ユニソフト3年目の川村勇貴です。
システム開発系のチームに所属しており、日々プログラムを書いていま
す。今では、毎日プログラムを書いている私ですが、もともとは文系大
学・文系大学院出身です。

そんな私がなぜITに興味を持ったのか。

その理由は、私が中学生だったころにさかのぼります。
そのころ、兄が持っていた『BLOOD Y MONDAY』という漫画に
ハマっていました。ハッカーの主人公がそのスキルを活かしてテロから
日本を守るストーリーです。

当時、家にパソコンがなかった私はパソコン一つでなんでもできる主人
公を魔法使いのように思いました。

しばらくして、家にパソコンがやってきて、インターネットが開通しまし
た。私は『BLOOD Y MONDAY』で紹介されていた100回ク
リックしないと消えないウィンドウを出すプログラムを作成したり、
Windowsコマンドを試したりしました。

当時はそのプログラムやコマンドがどういう意味なのか理解できていま
せんでしたが、黒い画面に呪文のような文字を入力するだけでパソコン
を自由に動かせたので、中学生特有の悦に浸るとともに、なにかすごい
ことをやっているんじゃないか」とドキドキしました。

「あのとき体験したドキドキを仕事にできたらいいな。」
そうした理由から、私はIT業界を志しました。

一般大学出身ということもあり、入社した当初はIT特有の考えかたや
概念に慣れず、業務に必要な知識を身に着けられるか少し不安でした。
しかし、ニガテは伸びしろだと思い、人一倍Java言語の勉強に取り
組んだり、積極的に

情報処理試験の勉強をしたりしました。

幸いなことに、ユニソフトでは勉強用の教材や資格試験

の費用に手厚い保証がです。そのおかげで金銭的な

心配をすることなくITの勉強を続けられました。勉強を続けたおかげ
で、いまでは応用情報技術者試験に合格し、

オブジェクト指向プログラミングもちよつと分かるようになりました。
IT業界の面白いところは、勉強して身に着けた知識を仕事で実践でき
る点です。

昔からの好奇心と探求心だけで、挑んだ世界。

最近勉強したアレをこのアプリ開発で試すとどうなるんだろう」と
いまでは、日々あの黒い画面に呪文を書いて、アプリ開発して
います。

これから先の、新たな技術、ITの世界、出会う人たちを想うと
ワクワクがとまりません。

ユニソフトは、私です。



ポチってからの恐怖と 芽生えた好奇心



インターネットは怖い」、初めてITの世界に触れた感想です。当時小学生の私が、怪しいサイトに好奇心からアクセスし、多額の請求を求める表示を見た時のことでした。

住所が知られたのではないか、家に誰か来てしまうのではないかと、すごくハラハラ・ドキドキしたのを今でも覚えています。

またこれと同時に、どういう仕組みで表示されているのだろうか、どうしたらこんなページを作れるのか、それを多くの人にどうやって公開しているのか、インターネットの世界が不思議でたまりませんでした。

漠然とした好奇心が芽生えた瞬間でもありました。

しかし、当時は周りにそれを教えてくれる人はいません。

知るには、自分で学び、知識を得るしかないと思いまし
た。そんな気持ちから、高校卒業後は、情報系の専門学校に進学することになりました。芽生えた好奇心と義務教育と違って現実社会で実際に活用されている技術を学ぶことが楽しくもあり、とにかく資格勉強に励みました。

その甲斐あって、国家資格を複数取得できました。

中でもうれしかったのは基本情報を取得できたことで、一気に自分に自信が付きました。

専門学生時代は、自分の中でもかなり有意義な時間を送れたと思います。小学生の頃の恐怖は無くなり、ITが面白いと思うようになりました。

私は今、ユニソフトに入社し、インフラ系の仕事を担当し
3年目になります。日々仕事に携わる中で、資格勉強だけでは学べ
なかった分野を学び、勉強の毎日を過ごしています。

全く知識がない分野に関する仕事を担当する時は、とてつもない不安に襲われます。

「このコマンドで本当に合っているだろうか。」

イーバが壊れてしまうのではないか。」

実際にミスしたこともあり、重要な作業を行うときは、内心ヒヤヒヤしています。しかし、そういった恐怖心があるからこそ、入念に調べものをしたり、他の人に確認させてもらったりと、品質が得られるのだと思います。また、SEとして多様な知識を知り、エンジニアとして成長するのだとも思います。

わからないことを無闇に恐れず、ひたすらに知ろうとする。
この気持ちを忘れずにこれからも分からない事に向き合っていきます。

ユニソフトは、私です。

前のめりぐらいがちょうどいい。
と、思っている僕。



私は広島出身です。お好み焼きは広島風が大好きです。癖はよく、鼻歌を歌っています。

学童保育のころ、よく絵本をみていました。理由はないのですが、何んとなしにその絵本を眺めていることが多かったのを今でも覚えています。

すこし難しい話も分かるようになった高校生の頃、ホワイトハッカーの特集番組を見てITの世界に興味を持ちました。こんな世界があるんだなど、こんな技術を身に着きたいなど。そんなことから、携帯ゲーム機のファームウェアの改造にはまっていきました。

高校卒業後は、迷わず、ITの学校に進学です。興味のある分野だったので、勉強がいやでなく、国家試験に複数合格することができました。人生で初めて幸福感と達成感を感じました。

あと、彼女もできて、すばらしい！！学生時代を過ごせました。学生生活後半戦、採用面接でのこと。

面接官（現社長）に「これから生活する上で何かアドバイスありますか」と質問したら

「入生、若いうちにとばすのがいい。沢山チャレンジしてください」と答えてくれました。

ふむふむ、そうかと。よしよしと。内定を機に、彼女と結婚して、上京するっ！と心に決めました。

妻と上京して新しい環境で緊張というか気負いがありましたが、程なくして直ぐになれました。都会の人は冷たいという印象があったんですが、意外と僕と同じく鼻歌を歌っている人が多いことに気付きました。いい街です！

そして実際にエンジニアとして二年間働きました。1年目は出張やデータセンターに行ったり、とにかく先輩の背中を追うので精一杯でした。今現場ではお客さんと密に連携をとりながら、毎日エラーと戦っています。新しい知識の連続、気付きの連続な毎日。やりがいがあるって、日々成長を感じ、イキイキしてます。

いつかの絵本、僕を探しに」の様に「タッター」と鼻歌を歌いながら、いろんな人、技術と出会って、想い、感じる。

そんなSE人生を歩んで、そして、私は必ず、立派な人になる。

初めまして、細井と申します！

ユニソフトは、私です。

